

炎症でつながる糖尿病と歯周病 ～内科医の目からみた口腔感染制御の意義～



にしだわたる糖尿病内科院長、糖尿病専門医、医学博士

【講師】西田 互 先生

【ご略歴】

広島県広島市出身

- 1988年 愛媛大学医学部卒業
- 1993年 愛媛大学大学院医学系研究科修了(医学博士)
- 1994年 愛媛大学医学部・第二内科 助手
- 1997年 大阪大学大学院医学系研究科・神経生化学 助手
- 2002年 愛媛大学医学部附属病院・臨床検査医学(糖尿病内科) 助手
- 2008年 愛媛大学大学院医学系研究科・分子遺伝制御内科学(糖尿病内科) 特任講師
- 2012年 にしだわたる糖尿病内科 開院、現在に至る

【日時】 11月4日(土)18時～20時

【会場】 九州ビル9階大ホール

福岡市博多区博多駅南 1-8-31 TEL092-461-1100

【会費】 会員および歯科衛生士無料
会員外 8 千円 (ぜひご入会下さい)



糖尿病と歯周病の関連性が注目されるようになった背景には、“炎症”というキーワードが存在します。歯周病は、細菌感染による慢性微小炎症がその本態ですし、糖尿病もまた肥大化した脂肪細胞が慢性炎症を引き起こすことが、原因のひとつであると考えられています。歯周病と糖尿病で起きている慢性微小炎症は、炎症性ホルモンの分泌を通じて、インスリン抵抗性をもたらし、結果として血糖値を上昇させます。

この「炎症を通じて歯周病と糖尿病がつながっている」という事実は、医療従事者の間でもそれほど認知されていないように感じます。私自身、8年前に歯科の世界に出会うまでは、口腔内にほとんど興味はなく、口の中を診察した際に扁桃は観察しても、歯牙や歯肉、歯周組織に関しては全く意識することがありませんでした。“視れども見えず”の状態にあった訳です。

しかし、「口腔は全身の窓である」ことを意識して診察するようになると、実に多くのことが見えて参りました。本日の講演では、様々な症例を通して口腔内の炎症、すなわち“口腔感染症”が命に関わるほどの事態を招いたり、歯周治療による“口腔感染制御”が、インスリンにも勝る劇的な効果を糖尿病治療にもたらし得ることをご紹介いたします。

併せて2016年に糖尿病領域の医科歯科連携で誕生した、大きな変革についてもご紹介いたします。連携を推進するためには医科と歯科双方の理解と互尊が必要ですが、このためには口腔感染制御の意義を両者が理解することが鍵となります。

【ご返信先 FAX:092-473-7182】

11/4(土) 西田互先生講演会ご参加申込書

医院名 _____

会員氏名 _____

歯科衛生士氏名 _____